

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	アジア文学論 I
科目基礎情報					
科目番号	0095		科目区分	一般 / 必修	
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	生産デザイン工学科 (機械創造システムコース)		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: プリントを配布する。参考書: 授業で随時紹介する。				
担当教員	木本 拓哉, 古賀 崇雅, 檜崎 洋一郎				
到達目標					
1、文学書や思想書などに描かれた人物・情景・心情の表現とその効果を読みとることができる。 2、文学書や思想書などと人間・社会・自然との関係性を理解することができる。 3、自らの考えを論理的に組み立て、適切な表現を用いて論述することができる。 4、他者の意見を理解しつつ、自分の表現を明確に発表することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	アジアの文化交流の歴史を踏まえて専門的な問題を整理することができる。	アジアの文化交流の歴史を踏まえて基本的な問題を整理することができる。	アジアの文化交流の歴史を踏まえて基本的な問題を整理できない。		
評価項目2	近代まで文学におけるアジア文化の影響について専門的知識を踏まえて理解することができる。	近代までの文学におけるアジア文化の影響について基礎的知識を踏まえて理解することができる。	近代までの文学におけるアジア文化の影響について理解できない。		
評価項目3	異文化と同時に自文化についても複眼的、論理的に分析し、表現できる。	異文化と同時に自文化について表現できる。	異文化と同時に自文化について表現できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本講義では、日本の思想文化の特色に注意しながらお伽噺に描かれている内容について表象学的アプローチにより読み進めていく。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業では毎回テーマに沿った資料を配布し、それを参考にしながら進める。</li> <li>講義では資料の解説のほか補足説明もするので、各自で講義内容をノートに記録すること。</li> </ul>				
注意点	講義中に参考文献を適宜紹介するので、できるだけ多くの文献を読んでほしい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス	講義の目的と概要と到達目標について理解できる。レポートの書き方について理解し、説明できる。	
		2週	お伽噺の成立	お伽噺の成立について説明できる。	
		3週	「桃太郎」について①近代における『桃太郎』説話の成立	『桃太郎』の内容と現在の親しまれている『桃太郎』成立までの変遷を説明できる。	
		4週	「桃太郎」について②—近代までの桃—	アジアの近代文学・文化までの桃のイメージについて説明できる	
		5週	「桃太郎」について③—近代までの犬・猿・雉—	アジアの近代文学・文化までの犬・猿・雉のイメージについて説明できる。	
		6週	「桃太郎」について④—近代までの鬼—	アジアの近代文学・文化までの鬼のイメージについて説明できる。	
		7週	まとめ レポートワーク	2週～6週目までの振り返り、各週の講義内容について説明できる。これまでの学習をもとにレポートを作成することができる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	「浦島太郎」について①近代における『浦島太郎』説話の成立	『浦島太郎』の内容と現在の親しまれている『浦島太郎』成立までの変遷を説明できる。	
		10週	「浦島太郎」について②—近代までの亀—	アジアの近代文学・文化までの亀のイメージについて説明できる。	
		11週	「浦島太郎」について③—近代までの竜宮城・桃仙郷—	アジアの近代文学・文化までの異世界 (桃源郷) について説明できる。	
		12週	「浦島太郎」について④—近代までの乙姫—	日本の近代文学・文化までの姫のイメージについて説明できる。	
		13週	「浦島太郎」について⑤—近代までの玉手箱—	アジアの近代文学・文化までの時間について説明できる。	
		14週	まとめ	9週～13週目までの振り返り、各週の講義内容について説明できる。	
		15週	レポートワーク	これまでの学習をもとにレポートを作成することができる。	
		16週	定期試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	演習・レポート	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0